



農業施設の大雪対策について

H26年2月の大雪被害を教訓に、事前対策を怠らないようにしましょう。

パイプハウス、鉄骨ハウスでは以下のような対策を講じておきます。

パイプハウス

- ①基礎部が腐食するなどの場合はパイプ交換が望ましい。少なくとも添え木などで補強しておく。
- ②ハウス間に融雪溝（幅1m程度）を掘っておく。

鉄骨ハウス

- ①基礎部にさび止めや腐食防止剤を塗布する。
- ②谷樋からの水のオーバーフロー防止のため、谷部の捨て張りを行う。

降雪前には、融雪準備として暖房機の燃油量の確認、暖房機と発電機との接続確認、筋交い留め金具の緩み点検、谷樋のゴミ掃除、雪の滑落を妨げる突出物を除去しておく、などが対策となります。

また、右図のような補強方法もあります。詳細は、一般社団法人日本施設園芸協会のHPからご確認下さい。



図 中柱による補強の様子

現在、エルニーニョ現象が最盛期となっており、日本では「暖冬」と予想されていますが、1～2月は寒気の流れ込みにより、太平洋側での大雪発生も懸念されています。要注意！



支柱の根元は、沈み込まないように、ブロック等を置くと良い



農業学園～経営管理講座を開催～

12月14日(月)、筑西合同庁舎第1会議室にて、農業学園『経営管理講座』が開催され、筑西・下妻・桜川市の若手農業者15名が確定申告とは何かについて勉強しました。講座では「確定申告とは何か、青色申告と白色申告の違い、記帳の方法など」について講義を受けた後、実際に領収書の内容を帳簿に書き込む演習を行いました。

受講生からは、「青色申告をしているが、基本的な内容から復習できて良かった」、「家計と農業所得の按分について不明確な部分があったので、家族にも確認し検討したい」との声が聞かれ、知識を深めると共に、自身の経営を見直す良いきっかけとなりました。



東部レタス部会が出荷目揃会を実施！



12月7日(月)、JA北つくば東部レタス部会が出荷目揃会を開催しました。当部会のレタスはハウス栽培であり、筑西市と桜川市の49名の生産者により約16ha作付けされています。目揃会では、参加者全員が現物を手に取って見ながら、規格や適切な出荷調製方法等について確認しました。

今年は11月の記録的な高温によりレタスの生育には厳しい年ですが、今後の対策や管理方法等についての意見交換も活発に行われました。良品生産が、市場・消費者から期待されます。



“ユメシホウ”で焼きそば作り



11月18日(水)に、パン用小麦「ユメシホウ」のPRと地元野菜の地産地消の推進を行っている新規作物研究会が、桜川市の大國小学校にて、6年生及び保護者約50名を対象に食育活動を実施しました。

今回の食育活動では、「ユメシホウ」を使った焼きそばや地元野菜を沢山使用した「すいとん」を作りました。親子での参加ということもあり、和気あいあいとした雰囲気で行われました。

児童からは「給食よりおいしい!!」、「もっとおかわりしたい!!」といった声が聞かれ、研究会員も満足した様子でした。



28年産梨づくりが本格的にスタートしました！



当普及センター管内の各JA梨生産組織において、11月18日、24日、25日の3日間、冬期剪定講習会が開催されました。講習会は各部会員のほ場で実施され、延べ約200名が参加しました。当部門では、実演を交えながら、今年の花芽の着生状況や剪定のポイントについて説明し、生産者とともに来年度の梨づくりに向けてスタートを切りました。

また当地域は、早期成園化が見込める「ナシの樹体ジョイント仕立て」に対する関心が高く、講習会等による当技術の普及が期待されています。



普及員のひとりごと…加川 敬祐

新採で赴任してから6年目。所内でも一番の古株になりました(通算年数ではまだまだひよっ子です)。最近、久々にお会いする方にはいつ筑西に戻ってきたの?と言われることも多いです(笑)以前は小学生だったお子さんが高校受験…なんていう話を聞くと、20代前半だった自分も30歳になり、年をとるわけだなあと実感するようになりました。

～編集後記～

明けましておめでとうございます。今年是一年男なので、良い事が沢山あるように頑張ります。(谷口)